

日高市周辺を訪ねて

高麗神社/高麗家住宅/聖天院/高麗石器時代住居跡

高麗神社 再調査

ここが高麗神社/以前、大東文化大学のフィールドスタディーで訪れたが、改めて調査してみたい



日韓国交正常化40周年記念とある



二ノ鳥居



日高市指定民俗文化財（無形民俗文化財）

高麗神社の獅子舞

所在地 日高市大字新堀八三三
昭和五十七年十二月八日 指定

高麗神社は奈良時代に創建された由緒ある古社で、当社に伝承される獅子舞は古記録を失い、何時の頃よりはじめられたのか定かでないが、享保十二年（一七二七）獅子頭再興の寄進連名板が保存されている。

獅子は三頭たてで、宮参り、雌獅子かくし、竿かかりの三場と氏子崇敬者の祈願をこめた願獅子の場とからなり、毎年十月十九日の例大祭当日氏子により奉納されてきた。

哀調をおびた笛の音、素朴な獅子の舞は、古代へのロマンをかきたてる。坂口安吾の著書「高麗神社の祭の笛」のほか、釈迺空も「山かげに獅子笛おこるしし笛は高麗の昔を思へとぞひびく」の歌を残し、また、加倉井秋をの「引獅子や昏れをうながす笛と風」の句碑も建っている。

神事祭礼の民俗行事を知るうえ、貴重
な無形民俗文化財である。

昭和五十八年三月
日高市教育委員会

社殿/伊東忠太設計 ⑥→

参拝諸名士芳名額 ①→



←⑭ 野田宇太郎・詩碑

←⑬ 高麗家住宅/重要文化財

←⑰ 齋館

正面は①参拝諸名士芳名額



太宰治他有名人の名が見える





何故この地に高句麗の高麗王若光はじめ渡来人が高麗郡に移り住んだのかについては大東文化大学講座資料を参照のこと

高麗神社

所在地 日高市大字新堀

高麗神社は、高句麗国の王族高麗王若光を祀る社である。高句麗人は中国大陸の松花江流域に住んだ騎馬民族で、朝鮮半島に進出して中国大陸東北部から朝鮮半島の北部を領有し、約七〇〇年君臨していた。その後、唐と新羅の連合軍の攻撃にあい六六八年に滅亡した。この時の乱を逃れた高句麗国の貴族や僧侶などが多数日本に渡り、主に東国に住んだが霊亀二年(七二六)そのうちの二七九人が武蔵国にうつされ、新しく高麗郡が設置された。高麗王若光は、高麗郡の郡司に任命され、武蔵野の開発に尽くし、再び故国の土を踏むことなくこの地で没した。郡民はその遺徳をしのび、霊を祀って高麗明神とあがめ、以来現在に至るまで高麗王若光の直系によって社が護られており、今でも多勢の参拝客が訪れている。

昭和五十七年三月

日高市

平成28年(2016年)には高麗郡建郡1300年を迎えることから記念事業が計画されているとのこと





出世明神の由来

高麗神社社務所

出世明神の由来
高麗神社の境内には、出世明神の由来に関する石碑が立っています。この石碑には、出世明神の由来に関する詳しい説明が記されています。また、高麗神社の社務所には、出世明神に関する資料が豊富にあります。ぜひご覧ください。

光景

- 1. 高麗神社の境内には、出世明神の由来に関する石碑が立っています。
- 2. この石碑には、出世明神の由来に関する詳しい説明が記されています。
- 3. また、高麗神社の社務所には、出世明神に関する資料が豊富にあります。
- 4. ぜひご覧ください。

高麗家はこの地で教育にも尽力したことが記されている

温知学校跡

ここは明治十九年二月から同二十年十月まで、温知学校々舎及び高麗発育尋常小学校仮本校舎が有った場所である。明治初期から当地方の学校教育の変遷は次の通りである。

明治五年 学制頒布

明治六年 新堀学校（聖天院本堂）台学校（田福寺本堂）開校

明治十六年 新堀学校を温知学校、台学校を明德学校に改称。新たに開進学校が

栗坪村新井儀七宅に開校

明治十八年 五月、温知学校新校舎建前（当地）

七月、近郷十ヶ村連合して梅原連合村発足

十月、政府より連合村に小学校一校とする通達

明治十九年 二月、温知学校（四教室）新校舎に移転（当地）

四月、梅原連合村は、梅原村内に新校舎を建設し、校名を高麗発育尋常小学校とすることに決定。温知学校を仮本校舎、他二校を分教室とする。

五月、高麗発育尋常小学校開業式（当地、修業年数四年）

明治二十年 九月、梅原村に発育尋常小学校新校舎落成移転（現高麗小学校校地）

十月、仮本校舎及び分教室閉校。旧温知学校々舎は高萩小学校々舎

として移築

十二月、高麗発育尋常小学校新校舎が開校

高麗神社祀職高麗大記（高麗家五十六代当主）は父明純の後を継ぎ居宅（現重要文化財高麗家住宅）で近隣子弟の教育に当たっていた。学制頒布以後学区取締役井上順造の依頼により新堀学校、台学校の開設から発育尋常小学校の開校まで、門弟らと共に当地方の学校教育普及に力を尽し、発育尋常小学校の初代校長となったが、開校から一年を経た明治二十一年十二月に職を辞した。

正面は御神門(ごしんもん)



「高」と「麗」の間に小さく「句」とある/つまり高句麗神社なのである



御社殿(正面は拝殿)/昭和初期に伊東忠太の設計になる





御本殿(安土桃山時代の建立といわれる/埼玉県指定文化財)の覆堂



他の角度で境内から社殿を見る



正面は⑩齋館



高麗家住宅

次はすぐ隣の高麗家住宅(代々宮司を務めた高麗家の旧家)

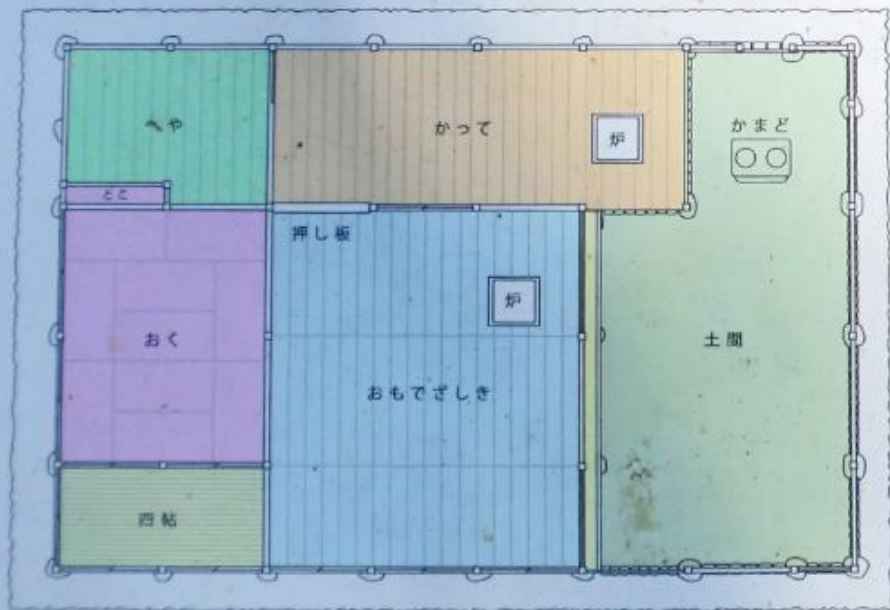


17世紀後半頃の築造で重要文化財となっている



高麗家住宅は高麗神社の神職を代々勤めてきた高麗氏の住宅です。建物の規模は桁行^{けたゆき}14.8m、梁間^{はりま}9.5mをはかります。

屋根は入母屋造り^{いりもやづく}で、茅で葺いています。間取りは五室と土間からなっています。表側にある「おもてざしき」は21畳の板敷きで、押し板を備え、前面には格子窓を付けています。「四帖」は「おく」の間の控えの間としての役割を持ち、「おく」には「とこ」が設けられています。「かって」の板の間にはいろりがきられ、土間の奥にかまどがあります。



高麗家住宅間取図

建築年代は高麗家に伝わる文久3年(1863)の絵図面に、慶長年間(1596～1615)に建てられたとの伝えがあると記されています。昭和51、52年度に行った解体修理でも棟札などの建築年代を示す資料は得られませんでした。建築形式や構造手法からおよそ17世紀後半頃と考えられています。

※押し板とは中世の座敷飾りで、壁下に作り付けた奥行き浅い厚板をいいます。現在の床の間の前身と考えられています。

平成23年3月
日高市教育委員会











手前から「おく」、「おもてざしき」その向こうが「土間」



前方は野田宇太郎・詩碑



家系図

一ほうにりの各二の余字一前からの
 この家系図の階段をのほりつのもよ
 ぼるかな朝鮮集地の託こした急野見え
 大坂かう押一をせし唐り大軍
 東の海辺になしつて新羅
 つひに七百平の栄華を誇らんた
 志の荒り、うらぶれた敗亡の民に混つて
 白ある日の相模の海に漂ふ者いた
 わたししの祖先若光の孫ふつた
 今もなほこのまらかに存い出します
 この領地はひとりの高麗船太刀
 の奥ついた大船若光の百の軍本
 死して休まねとふ伊保や舞臺の獅子面が
 亡命さふ銃いおとすい音となつて
 はてしなく海原にのこし水群のやうに
 わたししの心の中は、今も時初り悲鳴をまます
 せれでも人とならう武蔵野の入り道に
 傾じ思ひの人々を群れ集つた時
 石まはとすちの名もなき地たひりだけけは
 大日に希望のやうに光つておぼれてまうませつ
 赤ううつ穴窟野ぐりに慰められ
 やがて亡国の恨みもさめれたのもありませつ
 ほうほうのすまひ余字一まかりの
 この家系図の階段も階りて一まふと
 物だ一は何時もちう高麗船の、金一い
 社の前に入へよつてみるのです
 土屋い、い、根幹い、あの高麗船の
 かがやきのやうなものは、わたしには……
 と、青年は口をつぐみ
 入つた家系図を巻きあひめ
 土台のやうな沈みかへり月明の夜あけ
 この御座だけかた、とよして息をひいて
 山上には黒々とした祖先の墓が眠つてゐる

昭和二十五年二月 高麗家にて
 聖日了る夜

聖天院(しょうてんいん)

高麗神社の西隣にある聖天院/ここにも「天下大將軍」「地下女將軍」と書かれた「將軍標」が建っている(韓国の寺院では当たり前にあるものらしい)



고마산(高麗山)성천원(聖天院)쇼오라쿠지(勝楽寺)의 유래

속일본기(続日本紀)에 따르면 지금부터 약 1,300년전 고구려의 멸망으로 인하여 일본으로 망명한 고구려인들 중, 스루가(駿河. 지금의 시즈오카), 가이(甲斐. 지금의 야마나시), 사가미(相模. 지금의 가나가와), 가스사(上総. 지금의 찌바), 시모후사(下総. 지금의 찌바·이바라기), 히다찌(常陸. 지금의 이바라기), 시모쓰케(下野. 지금의 도찌키) 등의 7개 지방에 살던 고구려인 1,799명을 716년(靈龜 2년)에 무사시(武蔵) 지방으로 이주시켜 고마(高麗) 군을 설치하였습니다.

현재의 히다카시(日高市)는 이 고마군을 중심으로 한 지역이라고 추정되며 1889년(明治 29년)까지는 고마군이었습니다.

고마왕(高麗王) 약광(若光)은 이 고마군의 수장으로서 광야를 개척하고 산업을 부흥시켜 민생을 안정시키는데 커다란 공로를 세웠습니다.

쇼오라쿠지(勝楽寺)는 약광의 사후, 지넨소(侍念僧) 쇼오라쿠(勝楽)가 약광의 성불을 기원하기 위하여 751년(天平勝宝 3년)에 건립하였습니다.

약광의 3남인 쇼오운(聖雲)과 손자 고오진(弘仁)이 쇼오라쿠의 유지를 이어, 약광의 수호불상 쇼오텐존(聖天尊)- 이것을(歡喜天)이라고 함-을 본전으로 하였습니다.

이후, 창립 이래의 법상종(法相宗)을 진언종(真言宗)으로 변경하고 1580년(天正 8년)에는 본전을 부동명왕(不動明王)으로 하였습니다. 지금의 대까지 무려 1,250년간을 끊임 없이 계승하여 왔던 것입니다.

2000년(平成 12년)에는 산 중턱에 새로운 본당을 건립함과 동시에 제일 동포 무연고자의 위령탑도 건립하였습니다.

2002년 5월

히다카시

聖天院の由来

続日本紀によれば、今から1300年前高句麗滅亡によってわが国に渡来した高句麗人のうち甲斐、駿河、相模、上総、下総、常陸、下野7ヶ国の高句麗人1799人を716年(靈龜2年)に武蔵国に移し、高麗郡を置きました。現在の日高市は、高麗郡の中心をなした地域と考えられ、1889年(明治29年)まで高麗郡でした。

高麗王若光は高麗郡の長として、広野を開き産業を興し民生を安定し大いに治績を治めました。

勝楽寺は若光が亡くなったあと、侍念僧勝楽が若光の菩提を祈る為に751年(天平勝宝3年)に建立しました。若光の三男聖雲と孫の弘仁が勝楽の遺志を継ぎ、若光の守護仏聖天尊(歡喜天)を本尊としました。その後開山以来の法相宗を真言宗に改め、1580年(天正8年)には本尊を不動明王にしました。当代までに実に1250年間絶えることなく継承されています。

2000年(平成12年)には、山腹に新本堂を建立し、同時期に在日韓民族無縁の慰霊塔を建立されました。

平成14年5月

日高市

高麗山聖天院勝樂寺

所在地 日高市大字新堀

聖天院は、靈龜二年（七一六）国難を避け日本に渡来した高句麗人一七九人の首長高麗王若光、侍念僧勝樂、弟子聖雲を始めとする一族の菩提寺として奈良時代に創建された。僧勝樂により開基、聖雲と弘仁により落成され、本尊には王が守護仏として故国より將來した聖天尊（歡喜天）を祀った。故に聖天院勝樂寺と稱する。

当山開基より約六百年後の貞和年間（一一四五）中興秀海上人は、法相宗を真言宗に改めた。以来当山は、高麗郷一帯の本寺として未寺五十四ヶ寺を擁し寺門大いに興隆した。開山以来実に千二百数十年、法灯連綿として絶えることなく現在に継承されている。天正八年（一五八〇）第二十五世圓真上人は、本尊に不動明王を勧請し、聖天尊を別壇に配祀した。本尊不動明王（胎内仏弘法大師御作）、王守護仏聖天尊は共に靈驗まことにあらたかたで、多くの参拝者に深く信仰されており、境内には王靈廟（墓）高麗殿の池、高麗殿の井戸などの史跡が現存し往時が偲ばれる。

昭和五十七年三月

高麗山聖天院の由来と文化財

今からおよそ千三百年前高句麗滅亡により我が國に帰化していた人民のうち駿河甲斐相模上総下総常陸下野七國の高句麗人三九人をも元正天皇の靈龜二年(西暦七六年)武蔵國に移し高麗郡が置かれたことが続日本紀にみられる。この高麗の地は郡の中心をなし明治三九年まで高麗郡であった。高麗王若光は高麗郡の長として公野を用き産業を興し民生を安定し大いに治績を収めた。王は没後神に祀られ(現在の高麗神社)だがその侍念僧勝樂は王の冥福を祈るため一寺を建立して果乎天平勝宝三年示寂したのでその弟子弘仁は聖靈(王の第三子)とともに師の遺志を継ぎ寺を建て師の遺骨を納めてその宜福を祈った。その寺が高麗山聖天院勝樂寺である。王の祖國から守護仏として持ってきた聖天歡喜仏の本尊としたので聖天院の名をもつて広く知られてゐる。新義真言宗知山派に属しては門末五ヶ寺を擁するも利で當代までに定に五ヶ寺法燈は絶えきこなく継承されてゐる。

主なる文化財

- 一 國指定重要文化財 銅鐘 本堂内 高麗八二センチ×径四五センチ
文政二年(一三二二年) 物部重季作
- 一 県指定文化財 鰐口 六八二年(四六六年) 澁井滿五郎作
- 一 高麗王若光の墓 砂岩多重塔 山川の右側 高麗ニミロセンチ
- 一 山門 天保二年(八三五年)より六年を費して建立された。下野國出雲若狹天竺の給はるる師有次作
- 一 阿彌陀堂 本堂の右側木造草葺 室町時代の建築と伝えられる。
- 一 御珠印状 徳川家康以降歴代の寺領寄進状十五石
- 一 青石塔婆 寛元二年(三四年)正心二年(二八九年)嘉元二年(一三〇四年)
- 一 高麗殿の池 高麗王廟東側
- 一 高麗殿の井 王廟より百米の山すそ
- 一 惣門 寛永年間(一六二四年)の建物であったが昭和四十年の台風により崩壊し昭和四十九年草葺を瓦葺にかへて再建した。

山寺は 新義真言 ほととぎす 虚子
日高市教育委員会

山門(雷門)/1832年建立



日高市指定文化財



標柱には「国指定重要文化財 銅鐘 一口」及び「県指定有形文化財 聖天院応仁鱈口 一口」と記されている



正面階段を登った所が惣門(中門)/そこが旧本堂跡地であるという



さまざまな石造物がある



馬頭觀世音





昭和49年に再建された惣門



聖天院の文化財

国指定文化財

銅

鐘一口

昭和二十七年一月三日指定

徳川将軍廟の境内にあり、口徑四、五センチメートルの銅鐘は、信阿弥と平定澄が、鎌倉時代に関東各地に名鐘を造した物部季重に造らせて、文應二年(三二二)に勝楽寺(聖天院)に奉納したものである。上帯に雲、下帯に唐草文を繊細に鑄出し、全体の姿も優美である。また、文應二年の清造銘は聖天院が古刹であることを証している。

銘文 武州高麗勝楽寺

奉鑄鐘長二尺七寸

諸行無常 是生滅法

生滅滅已 寂滅為樂

文應二年(三二二)三月 日

大檀那比丘尼信阿弥陀佛

平定澄朝臣

大工物部季重

県指定文化財 聖天院 應仁鯨口一口 昭和二十九年二月一日指定

直徑三十三センチメートル

この鯨口は、衛門五郎が願主となり、應仁二年(四六八)に、江崎屋郎に作らせて、鬼窪郷佐那賀谷村(現南埼玉郡白岡町)に、その父伊豆神社に奉納し、わけて当院に蔵せられたものといわれる。

法江は、現若槻市の一部で、中世まで法江鑄物師と呼ばれる。同郷居住し、大満五郎もその一人である。特徴ある両耳と美しい掃き窓を持つ、全体の均整もよくこれている。

銘文 武蔵埼玉郡鬼窪郷佐那賀谷村

父伊豆屋宝前鯨口願主衛門五郎

應仁二年(四六八)十一月九日

大工法江満五郎

市指定文化財 徳川将軍廟 心守領寄進状 十箇条 文政五年十月十日寄進

高麗王 若光の 慕一 朱 昭和二十九年二月一日指定

埼玉県教育委員会

昭和五十六年三月 春

聖天院

境内の中の庭園がすばらしい



阿弥陀堂/日高市指定文化財



遠方は本堂



阿弥陀堂



さまざまな石造物がある



右手は書院・庫裡



書院側面



さまざまな石造物





阿弥陀堂側面



「乳垂れの銀杏」とある



更に登る



鐘楼が見える





銅鐘/これは重要文化財のものとは別物



遠方の石塔は在日韓民族無縁仏の慰霊塔/その左手はソウルのパゴダ公園(塔洞公園)にある八角亭を縮小した建物



本堂側面





高麗王若光の像



本堂側面





本堂/総ヶヤキ造り/平成12年落慶







安次町丁巳陽立
大正十一年









変わった形の渡り廊下





左手は見晴らし台



見晴らし台から見る景色



さて、元に戻るとする



さて、次は山門の右手にある若光を祀った高麗王廟







高麗王若光の墓/日高市指定文化財



若光の墓とされる多重石塔/凝灰岩で造られた、純然たる朝鮮様式で鎌倉時代の造立と推定されている



標柱に「史跡 高麗殿池」とある



高麗石器時代住居跡

これは国指定史跡である高麗石器時代住居跡の標柱





国指定
跡
日高市
高麗石器時代住居跡
入口









縄文時代中期の竪穴式住居の遺跡



時期の異なる二軒が一部重複しており、どちらも円形という



中央は炉の跡







日高町三回麗石器時代住居跡

入間郡日高町大字台七九の一
昭和二十六年十二月二十六日指定

この住居跡は縄文時代中期のもので昭和四年に発掘調査された。当時としては、このようになった穴式住居跡の発掘調査例は全国的にみても数少ない。県内では初めてのものであり、その後の考古学が空の先駆けとなったことで知られている。

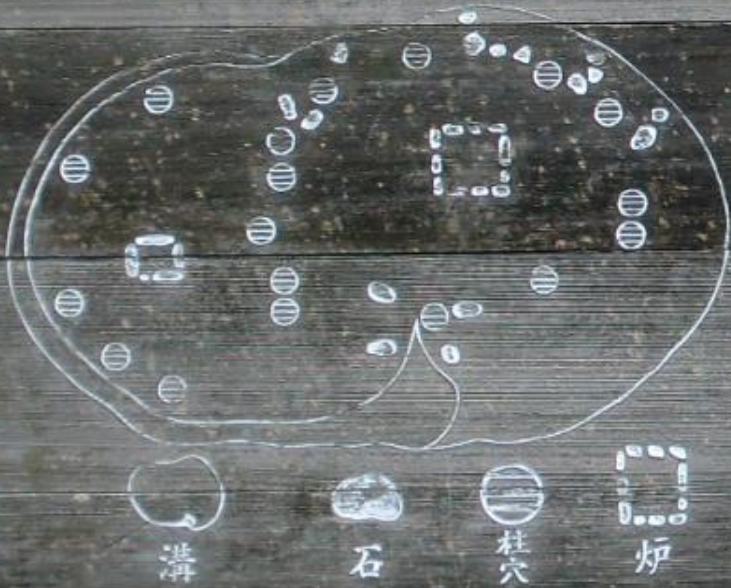
この住居跡は、時期の異なる二軒が一部重複してゐるものである。どちらも円形で、直径が約六メートルほどの大きさである。それぞれ、中央よりやや北に寄つたところに石で囲まれた炉跡があり、南側の石垣の炉の中には縄文土器が一個体埋設されていた。

また、周囲には柱をたたと考へられる小さな穴が十数個めぐつてゐる。

二軒の住居跡からは多数の縄文土器をはじめ、耳飾かごの土製品、打製、磨製石斧、石皿、くぼみ石、石鏃、石錐などの石製品も検出されている。

昭和三十六年三月

住居跡縮図



埼玉県教育委員会
日高町教育委員会

고마 석기시대의 주거지
(高麗石器時代住居跡)
: 국가지정문화재

쇼와 4년(1929년)에 발굴조사가 실시
되어 죠오문(縄文)시대 중기(4,500년전)의
수혈식(竪穴式) 주거지가 중복되어 있음이
밝혀졌습니다.

고고학사상 수혈식 주거지의 조사 사
례로서는 전국적으로도 초기의 것이며
사이타마현내에서도 최초의 사례입니다.

두 채의 평면형은 원형으로서 함께 직경
6미터이며 유물로서는 죠오문 토기, 석기,
흙 방울, 귀걸이 등이 출토되었습니다.

2005년 2월
히다카시 교육위원회

高麗石器時代住居跡
(国指定文化財)



参考ホームページ

<http://www.komaiinia.or.jp/index.html>

http://www.komaiinia.or.jp/buratto.html#buratto_02

<http://www.komaiinia.or.jp/komake.html>

<http://homepage3.nifty.com/ih1eda/komakejvuutaku.html>

<http://www.bell.jp/pancho/travel/saitama/shodenin.htm>

http://www.tesshow.jp/saitama/hidaka/temple_nibori_shoten.html

<http://pddlib.v.wol.ne.jp/photo/hidaka/shodenin.htm>

<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/hist/s2/komaiu.htm>

http://www.ne.jp/asahi/asamasa/shako/saitama/koma_sekki.html

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Saitama/HidakaShi/Sekki/Sekki.html>